

京都産業大学 世界問題研究所

ニューズレター 2025. 3 Vol.14

NEWS LETTER

CONTENTS

活動記録

- (1) 「LSI の社会での役割とその安全性について」
情報理工学部 教授 吉村 正義 2
- (2) 講演会「インド経済の発展とインドにおけるビジネスと文化の関係」
NPO 法人日本インド文化経済センター 理事長 ロイ詩百瑠 3

- (3) 「次の感染症パンデミックに備える」
生命科学部 教授 前田 秋彦 6
- (4) 世界問題研究所・上海社会科学院／国際ワークショップ「AI と社会」 7

その他

2024 年度研究会開催内容／研究所メンバー 10

【活動記録】

（１）「LSI の社会での役割とその安全性について」

報告者	吉村 正義（情報理工学部 教授）
開催場所	京都産業大学 11 号館 11205 教室+オンライン（Teams）
開催日時	2024 年 6 月 26 日（水）15:00 ～ 16:50

研究会概要

2024 年 6 月 26 日に世界問題研究所では本年度第 3 回の定例研究会を実施した。講師として本学情報理工学部教授の吉村正義先生をお迎えし、「LSI の社会での役割とその安全性について」と題してご講演をいただいた。

LSI（大規模集積回路）は、PC や家電等の日常的に使用される機器はもちろん、AI や自動運転、果ては軍事兵器にいたるまで、最先端機器の開発に不可欠の工業製品である。そのため、その生産技術や生産能力は、情報工学等の高度な科学技術の発展に関わるのみならず、経済政策や国家戦略といった社会科学的課題にも大きく関与する。

今回のご講演では、LSI に関する基礎的な知識と歴史から説き起こし、その上で国際的な生産体制の動向やネットワーク上の様々な問題、模造品ビジネス等の社会問題、さらに情報セキュリティに関する

研究動向など、多岐にわたる貴重な知見をご紹介いただいた。このような豊かな内容から、LSI が現代世界において有するきわめて重要な社会的意義があらためて浮き彫りになった。

ご講演後の質疑応答では、「LSI 技術に関する国際法上の規制はどこまで可能か」「悪意のある回路を潜ませる動機は何か」「インドにおける LSI 技術の発展の動向はどのようなものか」「セキュリティ技術についての日本の今後の技術的発展の見通しはいかなるものか」等の質問が寄せられ、活発な質疑応答がなされた。

吉村先生には、専門外の研究者にも理解が可能なように、高度な内容を丁寧に説明いただき、理系研究者と文系研究者の交流のための貴重な機会をご提供いただいた。先生のご協力とご配慮にあらためて感謝申し上げたい。



報告中の吉村教授



議論の様子

【活動記録】

(2) 講演会「インド経済の発展とインドにおけるビジネスと文化の関係」

講 師	ロイ 詩百瑠 (NPO 法人日本インド文化経済センター 理事長)
開催場所	京都産業大学ナレッジ・commons (図書館ホール)
開催日時	2024 年 7 月 24 日 (水) 15:00 ~ 16:30

講演会概要

世界問題研究所では、2024 年 7 月 24 日 (水) に本年度第 4 回目の定例研究会として、図書館および文化学部との共催で講演会を実施した。ゲスト講師として NPO 法人日本インド文化経済センター理事長のロイ詩百瑠 (しとる) 氏をお迎えし、「インド経済の発展とインドにおけるビジネスと文化の関係」というタイトルでご講演いただいた。

ロイ詩百瑠氏は、株式会社ログレス貿易の代表取締役として世界約 20 カ国において輸出入を中核とした事業展開をされている一方、現在は NPO 法人日本インド文化経済センター (略称 NICE) の理事長として、主に文化・経済面における日印間の交流促進に尽力されている。最近、日系企業からインド進出に関する相談を受けることも多く、インドにおけるビジネス展開に関するコンサルティングや支援の業務にも関わっておられるとのことである。ま

た、インド人留学生の受け入れ促進や日本人学生をインドに送り出す際のサポートも行っておられる。インド・ベンガル地方の出身であるが、ご結婚を機に日本 (京都) に移住されてから 40 年以上となる。現在は日本国籍を取得され、日本に帰化されている。ロイ氏は、国際都市である京都に他国の交流会館があるにもかかわらずインド関連のものが存在しない現状に疑問を抱き、インドと日本の国際交流を促進する拠点をここ京都の地に作りたいという強い思いから、NICE を立ち上げられたとのことである。

図書館長の大平睦美文化学部教授より開会のご挨拶を頂戴した後、ロイ氏のこれまでのご活躍の一端を知るため、講演の冒頭で 10 分程度のニュース映像を視聴した。映像は、2023 年の 5 月に広島で行われた G7 サミットの前後にロイ氏がテレビ局から取材を受けられた時のものであった。講演会は、①インド経済の発展と②インドにおけるビジネスと文化の関係という二部構成で進められたが、①においては、世界 5 位の経済大国としてのインド、モディ首相の掲げる経済・外交政策、最近のインドの人口動態などのトピックが、また②においては、インドに進出する日系企業の動向、インド式ビジネスマインド、インドでビジネスをする上で知っておくべきことといったトピックが取り上げられた。現場での豊富な経験に基づくロイ氏のお話は、時にユーモアを交えながら、インドの「リアル」をわかりやすく伝えるもので、聴衆はロイ氏のトークに大いに引き込まれた。

今回の講演で参加者は現代インドに関して多くの知見を得ることができたが、今後のインドと日本の



講演されるロイ詩百瑠氏

間の関係を考える上で以下の点は特に重要となるだろう。インドの急速な経済成長の背景には、モディ首相が推進している「メイク・イン・インド」政策や「デジタル・インド」政策がある。これらの政策は、国内での製造の促進や雇用創出、金融サービスのデジタル化、デジタル・インフラの整備などを通じてインドの経済成長を強く後押ししているという。また、株価の上昇や人口ボーナス（平均年齢約 28 歳、25 歳以下の若者人口が全人口の 55%）も経済発展に大きく寄与している。ロイ氏は、日系企業がインドに進出してビジネスを展開する際、成功のカギとなるのは、「同じ目線で理解しあうこと」である点を強調された。インドという国は未だ多くの課題を抱えているが、もはや途上国ではなく、インドの人々と接する場合も同じ目線での対等なコミュニケーション・対話が求められる。インドと日本は全く異なる文化を有しているものの、ビジネスの観点からは「ものづくり」を得意とする日本とマネージメントを得意とするインドが手を携えるならば、お互い最強のビジネス・パートナーになる可能性があると言明された。またインドでのビジネス展開にあたって知っておくべき事柄や、インドのビジネスマンに対する留意点についても非常に具体的かつ実践的な情報が提供された。ロイ氏の語りはいずれも現場での実体験に裏打ちされており、参加者に新たな視点や気づきを与えるものであった。最後に世界問題研究所所長の岩本誠吾法学部教授が

閉会の挨拶を述べ、講演は盛会裡に終わった。

なお、講演会に参加した学生からは以下のような声が聞かれた。

- ・「インドは日本のことを尊敬しているというロイ氏の言葉に親しみを感じると共に、日本もインドのことをもっと知り、インドにもっと歩み寄っていきべきだと感じた。インドの経済発展には日本も見習うべき箇所が多くあり、今後はインドにもっと注目していこうと感じた。」
- ・「インドを一つの文化として見るのではなく、それぞれへの理解が必要ということは、これまでの学びの中でも感じていたが、改めて考え、学ぶ機会となった。また、問題点・注意点においては具体的な事例とつきあい方を提示されていて分かりやすかった。」
- ・「今回のロイ氏の講演は、異文化理解という観点でとてもよい経験になったと感じる。日本人の『上から』という偏見の視点ではなくお互いが対等に尊重できるような関係を築くことが大切だと分かった。」
- ・「今回の講演会を通して、私が一番大切だと思ったのは、『生の声を聞く』ことだ。生の声なしには、知識が一人歩きして、偏見が生まれてしまう。インド人の性質のように、とりあえず行動して、生の声を聞こうとすることが重要だと感じた。」
- ・「私は、今まで、インドと日本を近い存在だと



ロイ氏の講演に聞き入る参加者たち

あまり思ったことがなかったが、インドと日本は、互いを補い合う最高のビジネス・パートナーになり得るのだと知り、驚いた。中でも、ビジネスにおける日本人とインド人の違いがとても興味深く、あまりにも正反対すぎるため、異文化理解や、ハングリー精神など、インド人には、日本人にはない、見習うべき点がとても多いと感じた。」

講演会後に行われた意見交換会には、ロイ氏、岩本所長、大平教授、耳野所員（現代社会学部長）、岑所員（経済学部教授）、志賀所員（文化学部教授）の他、インドでの滞在経験もある2名の学生（文化学部国際文化学科4年次生 琵琶陸さん、同3年次生 本行優さん）も参加し、講演会に引き続いて熱のこもった議論が展開された。「インドにおいて軍事分野での商談がうまく行かなかったと聞いたことがあるが、原因はどのようなところにあると考えられるか?」「日本に留学しているインド人学生の数は、現状非常に少ないと聞いたが、インド人留学生が日本に向かわないのはなぜなのか?」「インド人はマネジメント分野においても世界のトップ人材を輩出していると聞かすが、何か理由や背景はあるのか?」「一般的に日本人は失敗を極度に恐れる傾向があるように思うが、インド人が失敗を恐れず



講演会後の意見交換会の様子

チャレンジできるのはなぜなのか?」等の質問が寄せられ、活発な質疑応答がなされた。

世界問題研究所では「科学技術の発展と人類社会の変化」というテーマの下、文理融合・分野横断的な共同研究を行っているが、今回の講演会は研究テーマとの関わりで言えば「デジタル技術とインド社会・経済の関係」、視野をもう少し大きく取るなら「世界問題としての現代インド」を考える上で大変貴重な機会となった。今後も世界問題研究所は、学生や教職員にも開かれたこのようなイベントを開催することを通じて、学内における教育研究活動のみならず、種々の「世界問題」の解決に貢献していく所存である。



ロイ氏を囲んで記念撮影

【活動記録】

(3) 「次の感染症パンデミックに備える」

報告者	前田 秋彦（生命科学部 教授）
開催場所	京都産業大学 11 号館 11201 教室+オンライン（Teams）
開催日時	2024 年 10 月 23 日（水） 15:00 ～ 16:45

研究会概要

世界問題研究所では、2024 年 10 月 23 日（水）に本年度第 6 回の定例研究会を実施した。講師として本学生命科学部産業生命科学科教授の前田秋彦先生をお迎えし、「次の感染症パンデミックに備える」と題してご講演をいただいた。

感染症が、医学や生物学の対象であるだけでなく、社会的現象として政治、経済、文化など人間社会の多様な領域に強く影響を及ぼしうることを、ここ数年の間に、われわれは多大な犠牲を払いながら経験したところである。今回のご報告は、そうした人類史的経験を踏まえながら、科学的見地から次への備えを呼びかける、きわめて有意義なものであった。

ご報告では、トリアージに関する生命倫理学上の問いかけから始まり、コロナ禍での現象の振り返りとそこから見える様々な課題の指摘、感染症学に関する基礎的知見の紹介、マダニ媒介感染症についての研究のご紹介、そして今後に備えるための課題、といったトピックが分かりやすく提示された。

ご講演後の質疑応答では、多様な質問が多数出されたが、そのいずれにも、前田先生には丁寧にご回答いただいた。専門外の者にとっても、今後の人類社会が真摯に取り組むべき課題について、感染症学の豊かな知見から貴重な学びを得る機会となった。前田先生のご協力とご配慮にあらためて感謝申し上げたい。



報告中の前田教授



議論の様子

【活動記録】

(4) 世界問題研究所・上海社会科学院／国際ワークショップ「AI と社会」

開催場所	京都産業大学上賀茂総合研究館 1 階会議室
開催日時	2024 年 11 月 2 日 (土) 13:00 ～ 17:30

研究会概要

世界問題研究所では、2024 年 11 月 2 日 (土) に、中国の上海社会科学院から研究者団をお迎えし、研究交流を兼ねた国際研究会を実施した。本学と上海社会科学院は 2012 年に交流協定を締結しており、それ以来、世界問題研究所は研究交流を続けてきた。今回の研究会はそうした交流の一環として実施された。

今回の研究会は、「AI と社会」を統一テーマとして掲げ、進展著しい AI の技術的發展に伴う社会的課題について、多様な専門領域から多角的な検討を行うことを目的とした。

* * *

研究会では、まず京都産業大学世界問題研究所 志賀浄邦教授の司会の下、京都産業大学世界問題研究所 岩本誠吾所長の「開会挨拶」と上海社会科学院国際問題研究所 劉阿明副所長の「挨拶と上海社会科学院近況の紹介」が行われた。その後、引き続いて各報告が行われた。

第 1 報告の「AI 時代の若者社会：「80 後」と「90 後」の価値観対立と相互理解」(上海社会科学院社会

学所 包蕾萍副所長) では、Y 世代と呼ばれる中堅世代の価値観の変容を中心に、グローバル化とデジタル化の渦中にある現代中国の社会動向について興味深い分析が紹介された。

第 2 報告の「AI と法理論」(京都産業大学世界問題研究所 耳野健二教授) では、ドイツの近代的法理論において、人間と人間以外の存在者が理論的に区別されたことに注目しつつ(法人概念の確立)、AI の発展著しい現代社会におけるその意義が示唆された。

第 3 報告の「AI 時代におけるスマート社会の構築」(上海社会科学院デジタル情報研究所 丁波濤副所長) では、AI の技術的發展がスマート社会の構築に向けて多大な利点をもたらすことを強調しつつ、同時にそれが安全保障、知的財産、ガバナンス等、多様な社会課題をもたらすことが論じられた。

第 4 報告の「都市コミュニティ・ガバナンスにおけるデジタル技術とイノベーション」(上海社会科学院政治と公共管理研究所 薛澤林副研究員) では、とくに上海市の事例を取り上げ、現代中国の都市における地域コミュニティ(都市居委會)のガバナンスにデジ



挨拶する岩本所長



挨拶する劉副所長

タル技術が与える影響について、詳細な分析が提供された。

第5報告の「AI・自律・法」（京都産業大学世界問題研究所 久保秀雄教授）では、AIの発展に伴う社会変動をタルコット・パーソンズの社会理論を踏まえて解釈しつつ、AIの発展が、一般に心配されるのとは異なり、個人の自律をむしろ促進することが強調された。

第6報告の「AI時代の新しい技術が東アジアの海洋パターンに与える影響」（上海社会科学院国際問題研究所 劉阿明副所長）では、東アジアの海洋に関する国際政治学的現状とその地政学的重要性が分析されたのち、これらに対するデジタル技術の発展の影響が論じられた。

第7報告の「AIと意思決定」（京都産業大学世界問題研究所 中谷真憲教授）では、意思決定を支援するための、AI等を活用したデジタルツールの紹介と分析が論じられ、これらを活用することが組織的意思決定における民主的公共性の確保につながることを強調された。

これらの各報告の後には、上海社会科学院国際問題研究所東アジア研究室主任呉澤林副研究員によるコメントが提供された。丁寧なコメントをいただいたおかげで、各報告に対するより深い理解が可能となった。

また、最後のパネルディスカッションでは、京都産業大学情報理工学部 荻野晃大教授も参加され、貴重なコメントを提供してくださった。

* * *

以上のように、研究会では、「AIと社会」という現代的テーマの下で、多様な報告がなされ、議論が深められた。各論点や問題に対する理解については、日本と中国で共通している部分もあれば、異なる部分もあり、今後さらに継続的に検討を行い、研究の深化を図ることが望まれる。

研究会では、終始にわたり、真摯でありながらも暖かく協力的な雰囲気を失うことなく、熱心に議論が行われ、充実した研究活動を実施することができた。参加していただいた全ての参加者に心からの御礼を申し上げます。

また、京都産業大学世界問題研究所 岑智偉教授には、本研究会の企画・調整から当日の通訳まで、多大なお力添えをいただいた。ここに記して深謝申し上げます。さらに、京都産業大学研究機構事務室の皆様ならびに世界問題研究所事務局の藤本興子氏には、当日までの準備を始めとして、様々に周到なサポートを提供していただいた。あわせて感謝申し上げます。



報告と議論の様子

国際ワークショップ『AIと社会』プログラム

日時：2024年11月2日（土）13:00～17:30

場所：京都産業大学上賀茂総合研究館

開会挨拶：岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）

挨拶および上海社会科学院近況の紹介：劉 阿明（上海社会科学院国際問題研究所 副所長）

研究報告（1）：「AI時代の若者社会：『80後』と『90後』の価値観対立と相互理解」

包 蕾萍（上海社会科学院社会学所 副所長）

研究報告（2）：「AIと法理論—近代法理論における〈人〉概念をめぐる一」

耳野 健二（所員・現代社会学部 教授）

研究報告（3）：「AI時代におけるスマート社会の構築」

丁 波濤（上海社会科学院デジタル情報研究所 副所長）

研究報告（4）：「都市コミュニティ・ガバナンスにおけるデジタル技術とイノベーション」

薛 澤林（上海社会科学院政治と公共管理研究所 副研究員）

研究報告（5）：「AI・自律・法—Talcott Parsonsのマクロ社会変動理論を踏まえた見通し—」

久保 秀雄（所員・法学部 教授）

研究報告（6）：「AI時代の新しい技術が東アジアの海洋パターンに与える影響」

劉 阿明（上海社会科学院国際問題研究所 副所長）

研究報告（7）：「AIと意思決定」

中谷 真憲（所員・法学部 教授）

コメント（1）～（7）： 吳 澤林（上海社会科学院国際問題研究所東アジア研究室主任）

パネルディスカッション

総括と閉会挨拶：岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）

挨拶：劉 阿明（上海社会科学院国際問題研究所 副所長）

司 会：志賀 浄邦（所員・文化学部 教授）

逐 次 通 訳：岑 智偉（所員・経済学部 教授）



記念撮影

【その他】

《2024 年度研究会開催内容》

定例研究会

第1回	岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授） 「AIの軍事利用と通常兵器規制：AI意思決定支援システムとLAWS/AWS」	2024年4月24日
第2回	中井 歩（所員・法学部 教授） 「アイデア、移民、ポピュリズム」	2024年5月22日
第3回	吉村 正義（情報理工学部 教授） 「LSIの社会での役割とその安全性について」	2024年6月26日
第4回	ロイ詩百瑠（NPO 法人日本インド文化経済センター 理事長） 講演会「インド経済の発展とインドにおけるビジネスと文化の関係」	2024年7月24日
第5回	日中研究交流に向けた予備研究会	2024年10月2日
第6回	前田 秋彦（生命科学部 教授） 「次の感染症パンデミックに備える」	2024年10月23日
第7回	呉 澤林（経済学部客員研究員／上海社会科学院国際問題研究所東アジア研究室 主任、副研究員） 「大国間の産業間競争とその影響」 ※経済学部主催	2024年12月4日
第8回	趙 強（大連工業大学 講師） 「『中国歴史的経済周期論』から読み解くニーダムパズル」	2025年2月5日

国際学術交流

上海社会科学院 世界中国学研究所との懇談および意見交換	2024年4月8日
京都産業大学世界問題研究所・上海社会科学院 国際ワークショップ「AIと社会」	2024年11月2日



第1回定例研究会
報告中の岩本誠吾所長



第2回定例研究会
報告中の中井歩所員



第5回定例研究会（日中交流予備研究会）
報告中の中谷真憲所員

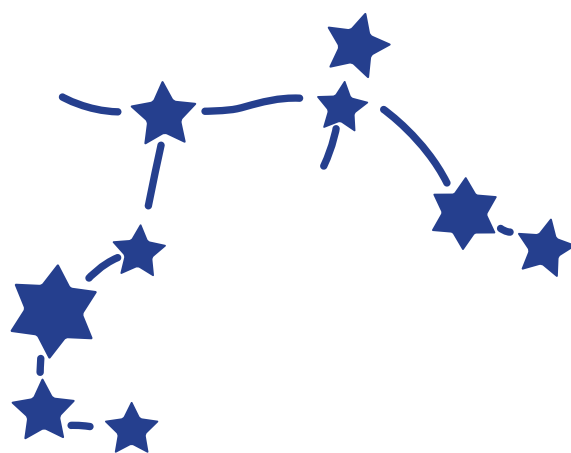


第5回定例研究会（日中交流予備研究会）
議論の様子

《研究所メンバー》

- | | |
|-------|-------------|
| 岩本 誠吾 | 所長・法学部 客員教授 |
| 久保 秀雄 | 法学部 教授 |
| 志賀 浄邦 | 文化学部 教授 |
| 岑 智偉 | 経済学部 教授 |
| 中井 歩 | 法学部 教授 |
| 中谷 真憲 | 法学部 教授 |
| 耳野 健二 | 現代社会学部 教授 |





京都産業大学世界問題研究所 ニュースレター 第14号 2025年3月

発行 京都産業大学世界問題研究所 京都市北区上賀茂本山 TEL (075) 705-1468

編集 京都産業大学世界問題研究所所員 久保 秀雄／同事務局 藤本 興子

印刷 中西印刷株式会社
